



しらさぎ

目黒区立第八中学校
学校だより NO.11
(通巻80号)
平成27年(2015)
8月25日(火)

夏休みを振り返って(前)

『つらい時こそ、笑顔でいなさい』

校長 飯野 博史

37日間の夏休みが終わりました。東京でも8日間連続猛暑日が続くというとりわけ暑い夏休みでした。今日から前期後半が始まりました。生活リズムを夏休みモードから学校モードに早く切り替えていきましょう。

早速ですが、来週9月2日(水)～4日(金)、前期期末考査を実施します。生徒には、夏休み前に試験範囲を配布し、計画的に準備するよう指導しています。ご家庭でもご指導、ご協力よろしくお願いいたします。

「戦後70年」にあたる今年の夏休み、新聞・テレビなどで毎日のように「戦争」が扱われました。毎朝届く新聞に目を通しては、目頭を熱くしました。特に印象に残った2つの記事を紹介します。1つは元プロ野球選手の張本 勲さんの体験、1つは歌手・俳優の美輪明宏さんの体験です。張本さんは広島で、三輪さんは長崎で被爆しました。戦争によって、あるいは差別によって一生消えることのない大きな心の傷を負いました。

◎張本 勲さんの話

…原爆で姉を亡くす前の年のこと。4歳だった私は、バックしてきた三輪トラックにぶつけられ、たき火の中に転がり込み大やけどを負いました。顔や胸の傷は治ったが、右手は薬指と小指が完全に癒着し、親指と人差し指も曲がったまま。叔父が警察に届けたところ「お前ら朝鮮人じゃないか」と、取り合ってくれなかったといいます。叔父は震えるぐらい悔しかったと言っていた。

戦争の後、朝鮮に帰っていた父が死にました。母の思いはどんなだったか。言葉も話せない地で、胸の張り裂けるような状況の中、3人の子どもを養ったのです。原爆の焼け野原の橋のもと、6畳トタン屋根の小屋で、工員らを相手に料理を出した。駅近くの闇市まで、電車代を惜しんで仕入れに歩いて。雪の中、戻った母の手が氷のようだったことを覚えています。朝から晩まで、母が寝ている姿を見たこともない。…

◎美輪明宏さんの話

…本当にたくさんの悲劇を見てきました。私に絵を教えてくれたボーイの三ちゃんに召集令状が来て、長崎駅へ見送りに行った時のことです。汽車のデッキに立って敬礼する彼の足元に、出発寸前、「死ぬなよお、どんげんことあっても帰って来いよ」としがみついた小柄な女性がいました。母親でした。

すぐに憲兵が来て、「国賊者！軍国の母がなぜ立派に死んでこいと言わんのだ」と引きずり倒したのです。母親は鉄柱に頭をぶつけ、血みどろでした。それを敬礼しながら見ている三ちゃんの気持ちはどんなだったでしょう。

戦時中は理不尽で悲惨なことばかり。それが戦争です。政治家にも戦争体験がない世代が増えて、戦争の正体がわかっていない。歯がゆく思います。…

